

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 内灘町立鶴ヶ丘小学校

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫※注 1

☐ 中学校 ☐ 中高一貫※注 2 ☐ 高等学校

☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校

☐ 特別支援学校

☐ その他（例：小中高一貫）

※注 1 義務教育学校を含む ※注 2 中等教育学校を含む

所在地 〒920-0271

石川県河北郡鶴ヶ丘2丁目162番地

E-mail tsuru-es@educet04.plala.or.jp

Website http://cms1.ishikawa-c.ed.jp/~tsurue/NC2/htdocs/

児童生徒数 男子 128名 女子 130名 合計 258名

幼児・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

3. 活動内容

4. (1) 活動の概要

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「鶴っ子・エコ活動」をテーマとして、身近な環境問題に取り組むことをきっかけとし、E S D の実践を通して将来にわたっていろいろな問題を解決しようとする態度の育成を目標とした。

具体的には、環境委員会を中心に、電気エコ・水エコ・紙エコ・ペットボトルキャップエコを柱とし、①電気エコに係わる活動、②水エコに係わる教育、③紙エコに係わる学習、④ペットボトルキャップエコに係わる学習を行った。

① 電気エコに係わる活動

毎月の電気使用量を棒グラフにして掲示し、昨年との違いをチェックし、放送や全校集会で電気の節約を呼び掛けた。

② 水エコに係わる学習

- ・ 毎月の水使用量を棒グラフにして掲示し、昨年との違いをチェックし、放送や全校集会で水の節約を呼び掛けた。
- ・ 水使用量が多くなる夏に、全校集会で節水の呼びかけを行った。(1 m³の模型を提示し、1 m³の水の量を意識させるようにした。)

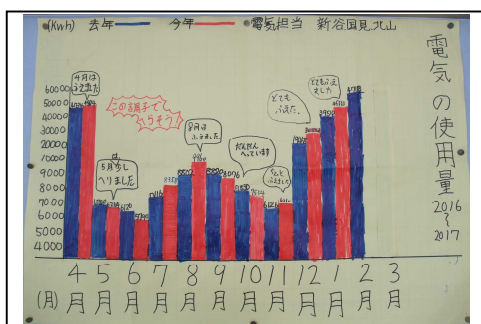
③ 紙エコに係わる学習

- ・ 掃除で出るゴミをチェックし、紙が混ざっている場合は、取り出してリサイクルに出し、それ以外は重さを毎日測って、1カ月の合計から1日平均の排出量を計算して目標2 kgの目標値を超えないようにした。
- ・ 書きそんじハガキを集めてユネスコに送ることによって、途上国の役に立っていることを放送で紹介し、集まったハガキをユネスコに送った。

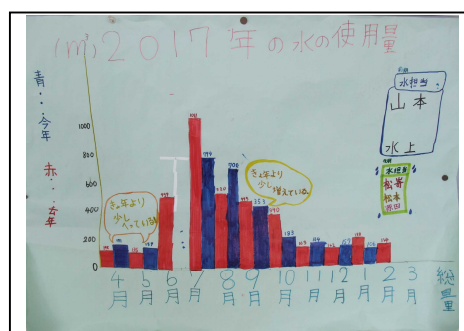
④ ペットボトルキャップエコに係わる学習

- ・ ボランティア活動として、ペットボトルのキャップを集め(エコキャップ)、団体に送って、ポリオワクチンに変える活動を続けて行っている。
- ・ エコキャップの回収量を増やすために、何のために集めるのかを放送やエコ通信などで全校に知らせた。期間を決めてクラスごとにエコキャップの回収を行い、回収量が多いクラスを表彰した。
- ・ 集まったエコキャップの量を計測し、何人分のワクチンに該当するか表に表して掲示することで全校への意識づけを行った。

① 毎月の電気使用量の掲示



② 毎月の水使用量の掲示



③ 書き損じはがきの取り組み



④ エコキャップ回収の様子



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

ユネスコスクール公式ウェブサイト 認定NPO法人 世界の子どもにワクチンを 日本委員会 ウェブサイト

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（２００～３００字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

主に特別活動の時間を軸として、委員会を中心に活動に取り組んでいる。そして環境を守ることの大切さについては、ＥＳＤを核とした課題解決型の学習過程を重視し、各学級で環境教育や道徳教育・また理科の学習とも絡めて、教科横断的に指導してきている。指導方法については学年会などで相談しながら、共通理解しながら工夫改善に努めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

環境委員会で話し合ったことを全校に向けて放送したり、職員間で共通理解したりすることで、児童や職員がエコ活動に対して常に意識できるようにしてきた。またその際には、なぜエコ活動を行うのかということについて児童が理解できるように配慮してきた。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

環境委員会が中心となり、児童のアイディアでエコの取り組みを続けてきた。また、職員間でも取り組みについての意見を交わし、よりよい活動につなげてきた。このことで、児童の意欲や意識の高まりにつながっていると考える。来年度も児童の声やアイディアを大切に、取り組みを続けていきたい。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

学期に一度エコ通信を発行し、学校での取り組みを家庭に伝えるとともに、家庭にエコキャップ回収や書き損じはがき回収の協力を依頼したり、エコ活動の推進を行ったりしてきた。このことで、エコキャップや書き損じはがきの回収量、そして夏季休業中に各家庭で取り組んだ省エネ・節電アクションプランの回収率が高かった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

県内でエコキャップの回収に取り組んでいる福祉施設の方に、定期的に回収に来ていただいた。その際、エコキャップがこの後どうなっていくかなどについて環境委員会のメンバーの前でお話していただいたりした。また、今後地域のボランティアの方がエコキャップの回収のお手伝いをしてくださることになっている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

今年度の交流実績は特にないが、近隣の小学校での取り組みを知ったり交流したりすることで、将来的な交流のための基礎になると考える。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

環境委員会を中心にエコ活動に取り組んできたが、委員会のメンバーから積極的な意見が出ることで増えてきた。例えば、全校児童のエコに対する意識を高めるため、電気・水・紙・エコキャップのキャラクターを募集し、そのキャラクターを小さなカードに印刷してエコの呼びかけの言葉とともに蛇口の近くや電気スイッチの近くなどに貼るという活動を行った。これまでの取り組みの積み重ねで、使っていない教室の電気を自主的に消したり、小さな紙もゴミ箱に捨てず回収ボックスに入れたりする児童の姿が多くみられるようになってきている。

（３）平成 30 年度の活動計画

○電気使用量の削減

- ・ 教室などの照明はこまめに消す。

○水使用量の削減

- ・ 水道の蛇口は確実に閉め、流しっ放しをしない。
- ・ 雨水タンクの水を畑や花壇の水やりに使う。

○紙ごみ排出量の削減

- ・ 使用済み用紙をプリント等に使う。
- ・ 資源回収ボックスで再生を進め、回収する。
- ・ もう一回ボックスで使用済み用紙の裏面の利用に努める。
- ・ 細かい紙でも資源回収に出し、回収する。
- ・ 100%古紙配合の再生紙を使用し、両面印刷や使用済み用紙の裏面を利用する。
- ・ 事務手続書類の簡素化のためメールを活用する。
- ・ 使用済み封筒を再利用する。
- ・ 年 2 回の資源回収に参加し、段ボール、新聞、雑誌の回収に努める。

○二酸化炭素排出量の削減

- ・ 1 年生が間引きしたアサガオやゴーヤ、ひょうたんなどのグリーンカーテンを設置する。
- ・ ペットボトルキャップを捨てずに集め、ごみの減量化と開発途上国の子ども達へのワクチンに寄与する。
- ・ 事務用品などは、環境配慮型の商品の購入を進める。
- ・ 空調の適温化（冷房 28 度程度、暖房 20 度程度）
- ・ クールビズやウォームビズを実践する。

〈その他〉

- ・ エコ通信を発行し、学校の取り組みの様子を知らせたり、家庭でのエコ意識を高めたりする。
- ・ 夏季休業に省エネ・節電アクションプランに取り組むよう家庭に呼びかけます